

愛の園の設立の想い

社会福祉法人ぶどうの枝福祉会

愛の園 統括園長 信川恒夫

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ二・十三)

愛の園前園長の齋藤溢子は、今年七月十五日に天に召されました。今は天国で夫婦揃って、前理事長の齋藤信男と愛の園設立の頃の苦労話をしているのではないのでしょうか。



さて、齋藤御夫妻に愛の園設立のビジョンが与えられたときの聖書の言葉が、先に紹介したピリピ書第二章十三節です。牧師として、また地域の民生委員として高齢者問題とのかかわりを持つことが、高齢福祉が御夫妻の生涯の使命となったきっかけです。愛の園の建設計画は昭和五十年頃から、おぼろげながら

与えられ、その後十年を経て、具体的な計画になっていきました。

私は不思議な神様の導きにより、社会福祉法人ぶどうの枝福祉会の設立に関わらせて頂きました。お二人が自分達の願いや夢を炬燵に入って、みかんを食べながら話されていた姿が懐かしく思い出されます。神様の導きは、外から与えられるものではなく、心の中に語りかける小さな神様の声に従うかどうかです。神様は御夫妻に、愛の園設立の願いを起こさせました。そして、その願いの実現が多くの人達の助けや喜びに繋がると、神様が祝福されたからこそ、愛の園は建てられたのです。

神様の事業は、人間の力ではなく、神様の力によって実現に至ります。私は御夫妻が、愛の園を立ち上げるときの苦労話を何度も聞きました。御夫妻は、その度に、「このことは、私たちの力では到底出来そうにない。」と諦めるのではなく、神様から与えられたビジョンだと確信していたのだと思います。逆に言えば、自分達だけで何とかするような計画だとすると、その計画を神様は、実はよしとされなかったのではないかと思います。

御夫妻の思いがいっぱい詰まった愛の園で、現在百数十名の職員が、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい。」(マルコ第十二章三十一節)の御言葉を大切に仕事についています。私たちは、今こそ御夫妻の思いが、一人ひとりの心の中で、熱く燃え上がり、いつまでも燃え続けるよう祈らなければなりません。

特別養護老人ホーム設立趣意書（昭和六十三年）

私どもは、老人ホーム設立の志を立ててより、十余年を経過しました。

ホームの土地の取得は、入所定員五十名で、当時最低3,300㎡を確保



愛の園開所当初の入居者と職員（平成5年5月）

しなければならぬと言われ、また土地を求めた東方西走致しました。ある土地は神戸市外で県の所管であるため、県の高年福祉課にも足を運んだこともありましたが、私どもは神戸市在住者のために、地元の市内で設立すべきであるという思いを、いよいよ切実に感じようになりました。老人ホーム建設地を求め、一番の問題は排水問題で、水利権を持っている人達や部落

会との話し合いなどで、挫折したことが度々でした。

私は民生委員を拝命して十一年になり、地域のお年寄りのお世話をさせて頂いており、現在副総務の役を仰せつかっております。一人暮らしの老人、寝たきり老人を訪問し、安否を尋ね、また、諸問題の相談を受けさせて頂いております。老人ホーム入居の勧めや、入居希望者を福祉事務所において頂いたりしておりますが、以前こんなことがありました。

ある盲目の寝たきり老人が、自分の病苦と奥さんの病氣と家庭事情の重圧に堪えかねて、自らの命を絶つてしまわれました。このよ



愛の園職員集合写真

うな人達のために、人生の最期の時を清潔な施設で、ぬくもりのある温かい介護を受けられる場としての老人ホームを何とか自分たちの手で建設したいという思いをいよいよ強く持つようになった次第です。私どもは、現在保育園を経営しております。昭和四十九年に開設致しましたが、その動機は地域のニーズに応え、地域社会

故齋藤信男理事長



に奉仕すべく、私が牧師をしております教会が母体となって開設致しました。日本は近い将来、未曾有の老人社会、老人大国になります。老人福祉のニーズが益々高まる時、私どもはそのニーズに応え、老人ホームの建設を目指しております。老人福祉は多くの問題に配慮する必要があります。私どもはそれらの問題に配慮していく施設を建設したいと願っております。例えば、老人性痴呆者の方々を安心して託して頂ける施設、また、在宅老人を抱えておられる地域の方々に役立てて頂くデイケアホームの開設、入浴サービス、ショートステイ、また日託の託老所、老人問題の相談コーナー等を設けたいと考えております。

最近、設備の完備した豪華な有料老人ホームが多く誕生しておりますが、市民の大半は庶民で高嶺の花です。中小企業に勤めて、退職金など少ない人々の老後を安心して過ごして頂ける場を提供したいのです。特別養護老人ホームの隣に軽費老人ホームを建て、健康な老人が入居し、無農薬野菜を栽培したり、美しい花を咲かせたり、鶏を飼ったり、池があれば養殖魚もよし、その元氣な老人が介護を要する老人とかかわりをもつ、そんなことも考えております。



故齋藤益子総園長

ホームの職員は忙しくて、なかなか話し相手になれないと聞きます。元氣な老人が話し相手やボランティアとして出来る働きを負って頂く。そんな複数の老人ホームを夢見ています。アメリカやヨーロッパの老人施設を見学し、また、日本

「特別養護老人ホーム愛の園」の沿革

年月	沿革
・平成4年5月 ・平成5年5月	・ 聖書を礎石として「愛の園定礎式」を行い、63名出席 ・ 神戸市須磨区妙法寺に、「特別養護老人ホーム愛の園」を開設する。定員特養50名、ショートステイ20名、デイサービス15名
・平成7年1月	・ 阪神淡路大震災発生 ・ 地震直後から愛の園は、被害の大きかった東灘・灘・中央・兵庫・須磨の各区より、高齢者を緊急ショートステイの制度により37名を収容する。 ・ 神戸市民福祉振興協会の代替ヘルパー派遣 ・ 須磨区下中島公園、東須磨公園内の高齢者、障害者の被災者のための仮設住宅の常駐支援員として4名を派遣し、安否確認、生活相談、生活支援を行う。
・平成8年7月	・ ホームヘルパー事業を開設する。
・平成10年9月 ・平成11年10月	・ 愛の園デイサービスE型（定員10名）を開設する。 ・ 在宅介護支援センター愛の園（現在の「名倉あんしんすこやかセンター」：神戸市長田区大塚町）を開設する。 ・ 生きがい対応型デイサービスを開始する。
・平成12年4月 ・平成13年4月	・ 居宅介護相談室（愛の園）を開設する。 ・ 神戸市立片山デイサービスセンター（定員20名）の運営を受託する。
・平成13年10月	・ 愛の園の定員を特養50名から56名、ショートステイ20名から14名に変更する。
・平成14年12月 ・平成20年4月	・ 天皇陛下より「御下賜金」を賜る。 ・ ケアハウス松寿園（定員50名：神戸市長田区丸山町）を指定管理者制度により運営を開始する。 ・ 名谷あんしんすこやかセンター開設、それと併せて居宅介護相談室を名谷愛の園居宅介護支援センターに改組する。

齋藤 信男
齋藤 益子

の多くの施設を見せて頂き学ぶうちに、このような願いが起こされていく。私は私財を投げ打って、この夢の実現を願っております。行政のご指導が無ければ実現の運びとなりません。宜しくお願い申し上げます。